

琉球大学学術リポジトリ

原稿：『植民及植民政策』 第三章 植民の動員
三～五節

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: 矢内原, 忠雄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38336

矢内原忠雄文庫

史料名	原稿『植民及植民政策』第三章 植民の動員 三 ～五節(植83～植95)
封筒番号	439
原文所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成17年11月18日
撮影者	富士写真フイルム 株式会社
備考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号：439

史料名	原稿『植民及植民政策』第三章 植民の動員 三～五節(植83～植95)
資料形態	B4原稿用紙
枚数	13
页数	13
縦 (cm)	
横 (cm)	
厚さ (cm)	
書誌的事項	植民 『植民及植民政策』の原稿と思われる。 今泉分類記号：Y

38
83

32

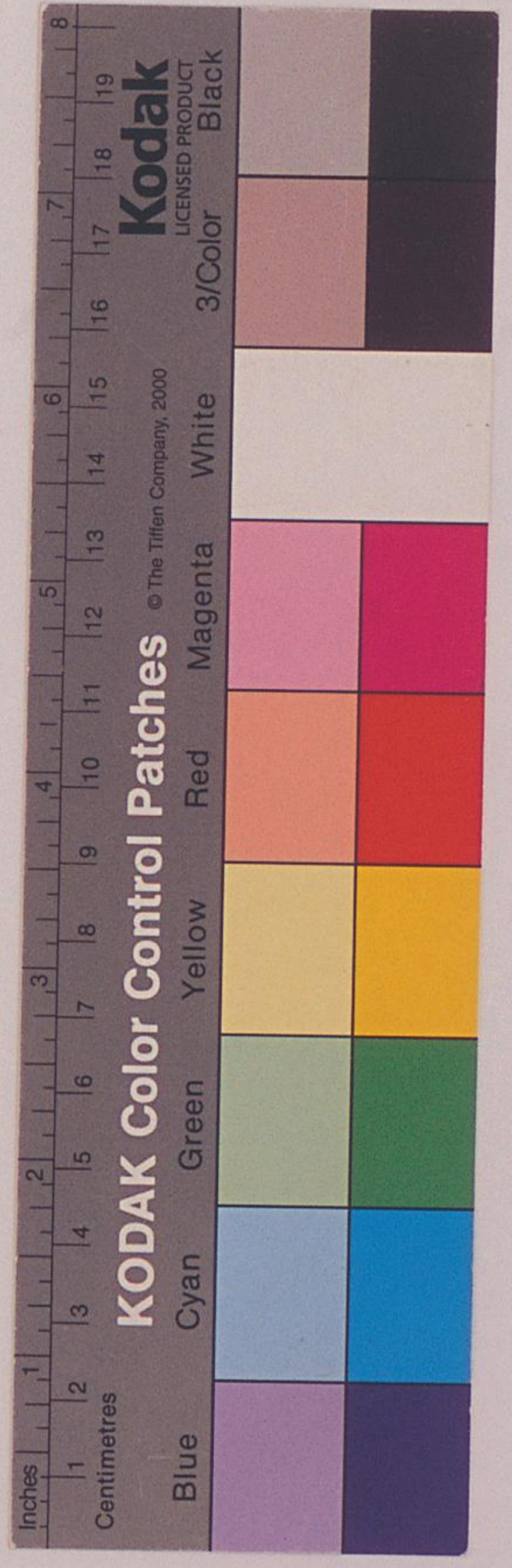
土地制度

つたのである。1) 社会制度特に土地制度も人口過剰の原因となる。羅馬の大地主制度 (latifundia) は奴隷労働を使用せしめるとはよりて、土地を失ひたる小農は都市に溢る。返利人口となつた。立憲の復讐に土地を命ぜりする (グラックス) の植民政策であつた。2) 近世に於ても大地主制度は不在地主制を伴ふことによる改良の策を視し、農業団有の性質に基き、事業の大規模たるに従ひ一定面積の土地を貸し、貸主の支拂する労働者の減少に伴ひ、人口過剰の原因となり、原因となる。猪連の例が愛蘭の例然り。

1) 同上書 P.90. Knowles. 前出書. P.90.
2) 羅馬の植民地には military colonies (軍人植民地), Plebeian colonies (平民植民地) の二種あつた。こゝに
いふは即ち後者である。
3) 愛蘭では1873年に於て、全国積の 87.9% しか 6,461人の大地主に属した。「その故に」特産も夥しく 1841-51
年間に二百五十万人以上、1853-1876年間に三百万人以上の移民を出した。この人口の絶対数は漸次減少した。愛蘭は特産の
人口の減少の例である。 — Philippovich, Grundriss. II. 1. S.34.
又 Leroy-Beaulieu の引用する處によれば「愛蘭に於て、借地税を失ひたる者の数と移出者数は下表の如し。」彼は之を
以て "clearing of estates" の行はるる過程であつたとする。 — Colonisation chez les Peuples Modernes, P.688-689

年	立退借地人数	移出者数
1849-60	1,865,000	1,551,000
1861-70	236,000	867,000
1871-82	311,000	712,000

(Leroy-Beaulieu, P. 1891.)



経済的自由の
歴史

社政

社会的

社会政策とは

社会生産力を

増進する。

1)

特殊法則一国内のある社会群に對し特殊の法
制の適用せらるゝ場合に特に甚しい。愛蘭の
産業の英國の干渉によりて其發達を阻害せら
れしこと^は幾^何か。英國農業の利益擁護の爲
め^は中東浦より^{その}羊牛及び牛酪製造の輸入は
法^(英國の輸入を)を以て禁せられた(一六六五年、一六八〇年)
。その羊牛工業は盛衰を知らずするや英國は
法律を以てその一切の輸出を禁^止せられた(一六
九九年)。²⁾スウィフト(Swift)は一七二五年の頃に書いたとい

ふ、「私は多岐移民のアメリカに赴くを少しも
恐^らず、彼等と養ふべき食物も有^らないの
もなく、彼等と養ふべき食物も有^らないの
ある」と。³⁾而して一七三〇年より^{二十}一七五〇年
間に^は十九世紀末の東欧諸國に於
ける猶太人排斥の法律も亦甚しく^歴史的であ
つた。有名なる西歐國の五月法律(一八八二年)
は猶太人の村落に居住農業従事することを禁じ、都會に
於ても亦狹隘な居住区域を^{指定}劃した。ル
マニア國に於りては猶太人は外國の保護を受

37
植
64

ATHENA (3)
1) 佐久間訳、マカドニク現論 P.171.
2) Bonar, Malthus etc. P.201
3) Egerton, Origin and Growth of the British Dominions. P.103

85 植

30

戦争と飢饉

けある外国人として居住職業其他一切の経済的社会的活動に言わ可うある^{制限}軍費を加へる。一八八一年一八九〇八年の東欧猶太人の移出者^は二百万人に上りしこと、亦怪しむを用ひない。

最後に、ヤルサネの積極的^的増産とトキオ^の戦争^{及び}飢饉は最も直接に生産力を破壊して移住の動因として迫るものである。^{ハラチネート} Palatine 戦争による同地方荒廢^は結果の一例であり、^は愛蘭の馬鈴薯飢饉^は（一八四五年）は後者の若例

である。「飢饉は^{人々}に如何にして移住すべきかを教へ、且つ人口過剰の意味についていゝるか悟らるゝありめた²⁾」この大飢饉を分水嶺として愛蘭人口は絶対的減少の趨勢を取りに至つた。移住はより人口の絶対的減少を来たせる唯一の例は憐むべき^{この}愛蘭である。而して支那人の移住は本國の飢饉甚くは戦亂に負ふ多しと認められる。

ATHENA (4) 1) 地誌ニオニ運部ニ就テ (経字彙集第ニ卷八一号 P.32-33)
2) Bonan. 前出書 P.205
3) ~~一九九三~~

36
植
86

生産過剰
の
主眼

移住即ち實質的移住の節因たる關係の特色は
不幸の回避たる處に在る。

二、
三、

私はこゝに生産過剰及び資本過剰に就て一
言いたし。

レキレス曰く、「生産するに必要の財貨の数量の
一部が至極使用し遂に利用されずして腐敗
せぬは奇と云ふ如き意味の客観的なる生
産過剰は、例へば異常に豊富なる漁獲の場々
の如く、全然地方的な例外的現象として生

ずると過かあり。他方に於て、其の財貨に対
する多數の人々の主観的欲望は高極まり満足
さぬおと状態にありし故に、物経済の意味
の高度の生産過剰を生じ得る。物経済

37
87

36

能はあはる、従て其の財貨を消費する能はあはる
 過剰を生ずる。其れ故に、市場価格を提議する
 はあはるとき、資本家の生産に能はあはるとか、
 賣らぬ能はあはる。此の価格を實現する能
 對して一定の利潤をもちあはると、殊に資本家に
 る。其れは一定の価格を以て、殊に資本家に
 的生産に於ては、貨財は高値とすゝ生産せら
 人の欲望は無制限かである。併作らば資本家
 にはより之を制限せらるゝるべし。一般的には
 は之を食ふ口により、靴や衣服は之を着る体
 り得ないものである。何とあはれ、靴物の需要
 に超過するか如き意味に於ての過剰は通常あ
 なりと雖も、人々の主觀的欲望は十分な飽滿
 あり得ない。其れ故に得るのみである如く、生産過剰
 あり得ない。人口過剰ありと雖も食ふは一物
 あり得ない。如き状態は極々の稀な例外的場合
 あり得ない。如く、生産過剰は相對的に解決せね
 十分なる價格に於て財貨が過剰に供給せらる
 一際生ずる」と。蓋し人口過剰が絶対的割合に
 的なる又は相對的なる生産過剰は、單に、不

ATHENA (4) 1) Lexis, W. Allgemeine Volkswirtschaftslehre, S. 199. 田辺忠男譯 経済原論, P. 362-363.
 2) Ricardo, Principles. (Fornier's Edition) P. 275-276. Malthus は反対に、食物に就てのみ生産過剰は存在せず。食物以外の場合は
 供給が需要を喚起す。即ち食物は之を食ふ口を増加せしめるが原因。となす。(Bonar, Malthus, PP. 232, 294)

88
植
88

37

リカルドー及び
ミルの生産過
剩説

人々の充たれざる欲を回復するに在りてある。
 恰も人口過剰の如き本家の社会に於ては、直接
 に社会的生産の総額に關係せり、寧ろこの
 生産を個人的生活資料に轉せしめ得るの
 即ち労働需要に關係する加如くである。
 リカルドーやミルは一般の或る生産過剩を
 否定する。彼等は凡人の欲望は無限であ
 り、之を満足する為には在りて生産を要する
 のが、而してより半ばを供するものは即ち生
 産の増加に在らざる。何故なら、生産する
 者は何人も年々消費若くは蓄積を目的とせざ
 るより、而して賣却は他の商品の買入の意思
 を以て行はれざることをなし、生産すること
 によりて彼は必然的に自己の貸財の消費者と
 なるか或は他人の貸財の購買者消費者となる
 如故である。一商高島の生産過剩はあり得
 ても、商高全部に對する一商高の生産過剩は
 單に(生産各部門の)組合せがわるかたに因
 る。一一般の生産過剩は、一不可能であ
 る。と。

ATHENA (4) 1) Ricardo. 前出. pp. 273, 276, 275.

Mill, J. S. Principles of Political Economy (Ashley's Edition) pp. 557, 558, 559.

77
89

38

マルクスの生産
過剰説

併せてマルクスの精緻なる分析の示す如く、

(賣買) 商品変形の運動は相量的に表対
 せる二個の行為の統一の一体であるが、同時
 にそれの商品たる以上、本質的に統一の在る
 二個の行為を分離し相互的に自主的地位を占
 むる。貨幣は單なる交換の媒介たるに止らず
 一生産物と生産物との交換を以て、相互的に
 独立なものである。空想的反時的に分離せる二つの
 行為に分つ作用をなす。即ち貨幣の交換が貨
 幣の存在によりて、 $M-C-M'$ なる二個の行
 動に分断せらるゝことによりて、 $C-M$ 生産過剰行
 つて恐慌を惹起す。何れも M' 第一の過程上
 よりて貨幣を得たる者は必ずしも直に第二の
 過程に入りて新なる商品 M' の消費者たるを要
 しないからである。消費而して市場生産の特
 色たる見込み違ひによりて、莫算なる一産業
 業部門に生産過剰従つて恐慌の起るは、恐慌
 の波及性に基き、部分的生産過剰は一般の生
 産過剰となり得る。リカルドやミルが部分
 的生産過剰を認めながら、一般の生産過剰を
 否定するは正當なりといふを得ない。

ATHENA (41) Marx, K. Theorien über den Mehrwert. II. 2. S. 274.
 2) 同上 S. 278-279.
 3) 同上 S. 292.

400
90

39

生産過剰の排除

資本過剰

生産過剰は恐慌により暴力的に矯正せられ、需要供給の平衡を回復する。恐慌は恢復マルサスの人口現況に於ける罪悪及び貧困の如し。それは生産過剰の積極的制限である。而して市場の擴張は生産過剰の剝削を延期し、若くは緩和すること、恆も校住り人口過剰に於けるか如くである。

資本過剰は生産手段の生産過剰である。即ち消費より控除せしむ、賃殖の目的の爲めに蓄積せしむる生産手段の過剰である。故に、蓄積そのもの目的を達せむるに至りたる時、資本過剰と稱する。資本蓄積の目的は利潤にある。一方、利潤率は低下の傾向があるが、蓄積に伴ふ資本額の増加により、利潤の額は絶対的には増加する。然るに利潤率の低下が、資本の増加と同じ割合、若くはそれより速くなる場合には、既に蓄積せしむる資本の蓄積附加するも、利潤額を増さず若くは却つてその減少を見る。かゝる場合には

ATHENA (+) 1) 同上 S. 274.
 2) 「資本の絶対的過剰の存在は、資本家の生産の目的の爲めに増加せしむる資本が零に等しきとき、----- 即ち増加せしむる資本 $(+ \Delta C)$ が、生産の利潤が ΔC により増大せしむる以前の資本 C より、~~より~~ 利多からざる、或は利少き利潤を生産せしむる。--- Marx, Das Kapital. III. 1. S. 233)

47
91

40

<p>自新苗の輸入により不変 本の価値を小さくし、廉價 なる原料の輸入により 御者の買値の低額を低くし つて餘剰低率を高くするこ とにより、 姉妹、又外國貿易の 又は他国に流れるる業の 資本の獲得する高き利潤率 により、本國の平均利潤率を</p>	<p>利潤率低下の 妨止 幾多の事情がある。外國貿易 及び資本の輸出も亦その一で ある。外國貿易は原料の 低下は一向傾向たるに止まり、 之に抵抗する 損し、近いと全体の資本蓄積の過程を攪乱す るにあらう。かくて資本過剰は過剰分の減價 破壊により矯正せらる。而して利潤率の 低下は一向傾向たるに止まり、 之に抵抗する</p>
---	---

1) 「單に最近三十年間に於ける社会的労働の生産力の驚くべき発展と前の時代とに比較して見れば、困難はむしろ其の往時の既得者も苦しめた。利潤率低下の現況に存せし。むしろ此の低下が何故により大、利益かたなきかを現況に於てある。」
 (Marx, 前出, S. 213) 「若し資本が現在の割合に増加し続れば、且つ利潤率を高める傾向を有する何等の事情も発生せざれば、利潤の最低限度に下落するは幾時短時日を要するにあらう。」 (Mill, 前出, P. 731) — 恰も Wallace が一夫婦に六見あり、二見は既に在る前に死せる割合の下に、1233年後の人口を計算し、ATHENA (A) 412,316,860,416人となるか、かくの如き計算は却て「人口増進を抑制したる事情の研究」を導くものなりと云ふが如し。(Cannan, Wealth, P. 55-56).
 2) Mill, 前出, P. 733 以下. Marx, 前出, S. 213 以下.

92 福

41

生産過剰及び
資本過剰と植
民

高ち了作用を有す。植民地貿易及び投資は資本
主義の隆盛に依りて一の必要であると言はれ
ば亦らあり。

生産及び資本過剰は二つの關係に於て植民
の動因となる。一は^(過剰)是に基く
りて過剰の労働人口を生ずる事であり、他
一は高品若くは資本の輸出、或は原料品食料
品の輸入は屢々人の移住を伴ひ起す故であ
る。

五二八

植民の消極的
動因の社会的
なるもの

植民の消極的動因の中社会的なるものは、
宗教上人種上政治上業の理由によりて受くる
社会的不利不安である。之等の理由によりて
一国内の文脈階級より壓迫せらるゝ、社会群は
、協會に於て提供せらるゝを他地域の地域に移居
して擾さざる社会生活を考へんと欲する階
在的の生活本能を有する。

宗教的(歴史)

宗教的(歴史)に基く^(歴史)植民は近世
普及と共にその重要さを失つたが、^{十六七世紀に}中世
これ極めて有力なる植民の動因であつた。佛

ATHENA (4) 1) Mar. 前出. S. 218-219. 反對 Ricardo, Principles. P. 277 (「商人が其の資本を外國貿易若くは沿岸貿易に投ずるは常に
選好によるものに於て、必要に依りて出づるものである」)

99

とす	る	会	種	大	後	因	と	流	し	西	南	の	り	班	Ter	Roman	英	國
す	歴	生	的	人	に	と	其	け	た	印	米	始	の	牙	cia	Cath	国	よ
る	史	産	的	の	十	と	重	る	る	度	ブ	め	の	葡	na	olic	よ	り
る	を	一	基	轉	九	一	要	る	は	諸	ラ	北	萄	萄	Qu	us	り	の
る	と	般	に	住	世	た	ま	る	本	島	ジ	米	萄	萄	akers	us	の	の
る	り	に	基	し	紀	た	る	一	国	に								

1) Coligny は Brazil (1556年), Carolina (1562年) 等に Huguenots を移住せしめた。(Morris, ^{H.S.} History of Colonization, Vol I, P. 364)

2) New England 諸州に於ける Puritans の移住は 1620年五月 Mayflower 号にて出帆せる 102人の Pilgrim Fathers により創り出された。Roman Catholics は Lord Baltimore の下に Maryland に移住し、Presbyterians は主として Ireland の Ulster 地方より Pennsylvania, North Carolina に移住し、Quakers は William Penn の下に Pennsylvania 植民地を創設し、独自の Quaker の一派よりの移住者も之に加はった。Egerton は Virginia, Georgia, 及び New York を除き、最初のアメリカ合衆国を構成せる諸州は之の成立に於てその影響の大部分を本國に於ける宗教的分離の影響に依る。(Egerton, ^{H.E.} Origin and Growth of the British Dominions, P. 105). 尚、新渡戸福造、米國建國史要見書 (大正八年) を見よ。

3) Brazil の最初の葡萄牙移住は 猶太人及び犯罪者を強制的に移住せしめたものであった。Brazil の新葡領となるや (1624年) 和蘭の猶太人と共に移住したが、1654年再び和蘭の手に復するに及び 猶太人その他、Catholics 以外の信徒は ATHENA (4) 本國に於ける同様の取扱を受くべしとの原則に基づき、國外に追放せられた。かくて Brazil を追はれたる猶太人は Barbados, Jamaica (英領), Surinam (葡領), Martinique, Guadeloupe, S. Domingo (佛領) 等の西印度諸島、及び New Amsterdam (即ち後の New York) を始め、北米東海岸の諸地方に入り込んだ。Sombart はアメリカの意見及び繁栄

48
94 植

63

各種動因の綜合的作用		政治的壓迫
以上各種の浦根地(經濟的社会的)	<p>必要としたりある。政治的革命が國民一部の移住の原因となつた。其の例に乏しくない。支那人の移住は本國に於ける政治的軍事的原因を避けて一動因として認めらるべきである。</p>	<p>政治的不平等は不安定な古代帝國植民地の動因であつた(帝國の國家組織は都市國家にして多數の市民を收容するに過ぎず)。故に人口増加して政治的緊張を来たすや之を緩和するがために外國に移民を放す(Outwardism)又は植民地を</p>

が主として猶太人の力なるを述べ、アメリカはその中の一部分としてこれを猶太人の地 (Judenland) と稱せしめしとす。(Sombart. Die Juden und das Wirtschaftsleben. S. 31)。之れも又 Sombart 流の誇張的新説であるが、併し猶太人の勢力を世視して南北アメリカ、全世界の歴史は甚しく詳解を妨げしやう(ある)。而して猶太人を世界各地に分布せしめた動因は其の積極的な發展欲よりも、却つて其居住地に於て受ける特殊の社会的壓迫に於て思ふ。

1) 1924年2月の海峽植民地華民保護局年報によると同年中海峽植民地に到着した支那移民は 181,430 名で前年に比し 14% の増加であるが、右移民増加の原因は一面同地方の錫及ゴム産業の發展に因するものと出果すべしと見、至りに廣東及福建地方に於ける騷擾を避け平地を南洋に居住せんとす希望に基きし、現に右統計中には 54,170 名の婦人及び子供を含み従来の最大レコードを示すに至つた。——東京日々新聞(大正十四年八月十八日)

ATI

85
95 植

84

因は必ずしも独立して作用せず、多くは相互
 錯して植民の動因となる。例へば Wallerstein より
 社会生活が一の統一的 無生 存在たる以上、その
 各方面の不安が相関連する 事 多く、而 此
 等小昔か相重複して作用する時最も有力なる
 植民の動因となるのである。たとへば愛蘭人
 の移住は 経済的、宗教的、政治的 不利の複合
 にあるが如し。 而 此の方面の最も有力なる
 動因たる は 時 場 合によりて一でない。 之 等 消
 極的動因はまた 次 章 に述べらるが如く、（ 實際上 ） 植
民 の

積極的動因と分断独立し得るものでない。か
 く分類するは單に説明の便宜に出づるのであ
 つて、社会生活の各方面、徒つて 社 會 群 移 住
 の諸動因は 単 に 綜 合 的 に 作 用 す る こ と は 言 ふ
 を待たない。 之 を 綜 合 す れば 植 民 の 動 因 は 社
 会群の生活力にありと言ふに歸する。